

罪障消滅（この教えによってよき縁に気づきよき道を歩む）

法華經如來壽量品第十六  
にょらいじゆりようほん

ぜこうろうやうく

是好良藥

こんるざいし

今留在此

によかしゆぶく

汝可取服

もつっふさい

勿憂不差

ないらしやく

乃知此藥

しきこうみみ

色香美味

そくしゆぶくし

即取服之

どくびようかいゆ

毒病皆愈

このよき良薬を今  
留めて、ここに

く。汝取って服す

べし、いえじと憂

ふることなかれ。

すなわら、この薬

の色香味よき

を知って、すなわ

ら取ってこれを服

するに毒の病、み

な愈ゆ。

に気づきよき道を歩む）

大意◆この経文は如来寿量品の中のたとえ話の一節です。ある所にどんな病気でも治す名医がいました。また、その医師にはたくさんの子どもが、ありましたが、その医師が留守中に子ども達は間違つて毒薬を飲んでしまい苦しがついていました。そこへ、父が帰つて、その状態を見て、良く効く薬を作り、子ども達へ与えました。何人かの子どもは、その薬を飲んで治りましたが、ほとんどの子ども達は本心を失っているため、その薬を飲まず、そこで父は、何とか子ども達に薬を飲ませる方法を考えました。自分が他国へ出かけ、そして、旅先から使いをやつて『父上は、お亡くなりになりました』と告げさせたのです。それを聞いた子ども達は、大変驚き、悲しみましたが、逆に本心を失っている子ども達は目を覚まし、そして、良薬を飲み、毒による病は治りました。

このお話の父はお釈迦さままで、本心を失つたことどもは衆生です。そして良薬は「妙法蓮華経」であり、薬を飲むことは「南無妙法蓮華経」と唱えることです。